

## HTPPテストによる正常者と精神分裂病者の比較

その他のタイトル	A comparative study of the performance of schizophrenics and normals on the HTPP test
著者	高橋 雅春
雑誌名	関西大学社会学部紀要
巻	7
号	1
ページ	77-94
発行年	1975-11-04
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00023160">http://hdl.handle.net/10112/00023160</a>

# HTPP テストによる正常者と精神分裂病者の比較

高 橋 雅 春

## 序

これまで多くの精神医学者は、精神分裂病者が自由に描いた絵の、さまざまな特徴について述べてきている。たとえば Jaspers, K.<sup>10)</sup> は、「(1)定まった曲線の形や丸み、角ばった線のひき方を常同的にくり返し、どの図にも著しい類似性があり、(2)奇矯・無意味・単調で全体の構成に統一性がなく、(3)些事に拘泥し、綿密で誇張的效果を示し、(4)性的な特徴の強調があり、(5)ごく簡単な図形に象徴的意味と空想が満たされ、(6)原始性や気味の悪さがみられる」と言っている。

他方、心理学者は、精神分裂病者に一定の具体的課題を描かせる描画テストの結果について報告している。この領域については、Machover, K.<sup>12)</sup> 以来、人物画テストがよく用いられており、Fisher, S. & Fisher, R.<sup>3)</sup>, Holzberg, J. & Wexler, M.<sup>7)</sup>, Ribler, R.<sup>15)</sup>, Reznikoff, M. & Nicholas, A.<sup>14)</sup>, Hozier, A.<sup>8)</sup>, Baldwin, I.<sup>1)</sup>, McElhaney, M.<sup>13)</sup> など数多くの研究がみられる。また樹木画テストについては、わが国にも斎藤<sup>16)</sup>の報告があり、HTP テストについては、Hammer, E.<sup>4),5),6)</sup> が所見を述べている。かつて高橋<sup>19)</sup> は、非行を行なって少年鑑別所に収容されてはじめて精神分裂病であることが分った少年と、通常の非行少年にHTP テストを実施した結果を報告したことがある。

ところで高橋<sup>20)21)</sup> は、臨床場面に用いる描画テストとしては、ひとつの課題でなく3つの課題を描かせる Buck, J.<sup>2)</sup> のHTP テストが有効であると考えてきている。ただ高橋の方法はBuckのHTP テストと異なり、鉛筆による描画の後でクレヨンによる描画をさせることはしない。また人物画に関しては Buck と異なり、被検者が最初に描いた人物と反対の性の人物をも描かしている。高橋はこれまで、この方法による描画テストをもHTP テストと呼んできたが、Buck のそれとの混同を避けるために、本論文以後はこれを HTPP テストと呼ぶことにする。

## 目 的

精神分裂病者と正常者に HTPP テストを実施し、これまで分裂病サインといわれていたものと、高橋の研究から妥当と考えられるサインとを取り上げて、両群を比較する。かつて高橋<sup>19)</sup> が HTPP テストを行なった、非行少年の精神分裂病者は、通常、精神病院を訪れる精神分裂病者よりも年齢が低く、症状も軽度で初期の段階にある者が多かった。前回の研究と異なり、今回

の研究では、精神分裂病と診断され精神病院に入院中の成人を対象として、HTPPテストを行なった。

### 被 検 者

実験群として、現在、精神病院に入院中の精神分裂病患者110人に、HTPPテストを行なった。患者の内訳は次の通りであり、接枝性分裂病を含んでいない。

男 59人（定型44人，非定型15人） 平均年齢 31.4歳，標準偏差 9.25

女 51人（定型30人，非定型21人） 平均年齢 34.3歳，標準偏差 9.81

この統制群としては、おもに大学在学中の学生を用いたので、次のように実験群に比べて平均年齢がやや低くなっている。

男 60人 平均年齢 21.1歳，標準偏差 1.29

女 50人 平均年齢 20.8歳，標準偏差 2.08

### 分裂病サイン

描画テストを臨床場面で用いる場合、描画像の個々の部分を分析して解釈することよりも、描画の全体的印象から解釈することが有効であると、多くの研究者は述べている。たとえば、Koch, K.<sup>11)</sup>は樹木画について、「樹木画は全体として直観的にとらえられる。細部までの検討をしなくても、われわれは整っているとか、不安定であるとか、空虚な感じだとか、大胆であるとか、充実しているとかいった印象を受けることができるし、場合によっては敵意を感じとってハッとすることもあろう。」と述べている。また人物画について多くの文献を展望した Swensen, C.<sup>18)</sup>は、global rating が最も信頼性があり有効であると述べている。高橋も HTPP テストの解釈においては、形式分析や内容分析以上に、全体的評価が有効であると考え、今回の研究では「歪んだ印象の描画」というサインを用いている。しかし本研究では、このサインだけでなく、次のように、これまでの研究者が精神分裂病のサインとして述べたものや、高橋の研究結果と臨床経験から得たサインについて、精神分裂病患者と正常者の間に差異があるかどうかを検討した。次に本研究に用いたサインをあげるが、※印と◎印については後述する。

#### I 家屋画

- ※1 歪んだ印象の家（全体的評価というべきものであり、プロポーションやパースペクティブの異常、奇矯な描き方などから、不適応の印象を受けるもの）
- ※2 非現実的・図式的・象徴的な家（象形文字のような家や、四角形と三角形をたんに並べた家や、現実に見られない家など）
- ※3 現実的なものと非現実的・図式的・象徴的なものの混在（標札以外の不必要な文字、たとえば空に東や西などと記入したり、奇妙な模様を付加したり、道に足跡を図式的に描くなど）

- ※4 普通の家屋以外の建物（教会，寺院，神社，城，デパート，水車小屋など）
  - 5 描線の性質
    - ※a ふるえ（通常の波型の描線ではなく，運動統制を失なっているように，微細なふるえが著しいもの）
    - ※b 必要な描線の欠如（描画像に必要な描線が欠如しているものであり，四角の窓枠を描こうとして一辺をまったく描かなかったり，二面の壁を描き一方のみ基線を描かなかったりする場合）
    - ※c 描線の不結合の著しいもの（5-bと異なり，必要な描線の忘却や無視ではない。描画像を推敲しようとしなかったり，不注意に乱雑に描いたりして，描線と描線の結合が悪く，空白部分が目立つ場合）
    - ※d 不必要な描線の著しいもの（描画像に必要な描線が著しく，それを抹消していないもの。描画像を構成するのに必要な描線を，単線のかわりに二重三重に描いたものはここに含まない）
- ※6 サイズが用紙の $\frac{1}{6}$ 以下の家
- ※7 サイズが用紙の $\frac{1}{6}$ 以下の家で，位置が用紙の左右上下の極端なところにあるもの
- ※8 弱くて薄い筆圧が著しく目立つ家
  - 9 透明性の明白なもの（壁を通して家の内部の柱や家具などを描く場合であり，たんに抹消や推敲が不十分な場合を除く）
  - 10 2軒以上の家を描くもの
- ※11 窓も扉もない家
  - 12 屋根
    - a 屋根が壁面となっている家
    - ※b 家の他の部分を単純に描きながら，屋根にのみ陰影をくわしくつけるなどの推敲が目立つもの
    - c 家全体との比率からみて，屋根が著しく大きい家
  - 13 壁
    - a ひとつの屋根に三面の壁を描いた家
    - b 家の基線もなく，用紙の下縁にもついていない家
    - ※c 壁の全面もしくは一面に，縦線（修飾され板の印象を与えるものは除く）を描くもの
- ※14 窓はあるが扉のない家
  - 15 扉はあるが窓のない家
  - 16 窓
    - a 同じ階で窓の大小の差が著しく目立つもの
    - b 窓が大きすぎたり，多すぎたりして，壁がほとんどないもの

- c こわれた窓の示唆
- 17 家以外の事物も描くもの
  - a 月, 太陽, 星, 雲など
  - b 池や池と魚
  - c 山
  - d 電柱, 電話ボックスなど家と直接関係のない建造物
- ◎e 塀や柵

## II 樹木画

- ※1 歪んだ印象の木 (全体的評価というべきものであり, プロポーションやパースペクティブの異常をはじめとして, 一谷ら<sup>9)</sup>のいう「性格偏倚型」「疑問型」の木もここに含める)
- ※2 非現実的・図式的・象徴的な木 (たんに三角形と長方形で描いたり, 枝の対称性が著しかったりして非現実的な木など)
- ※3 現実的なものと非現実的・図式的・象徴的なものの混在 ( unnecessaryな文字や理解できない模様を付加したり, 現実的な木に極めて図式的な葉を描くなど)
- ※4 普通の木以外の木 (電柱, 材木, たけのこ, きのこ, 草花など)
  - 5 描線の性質
    - ※a ふるえ
    - ※b 必要な描線の欠如 (幹の両側の線がそれぞれ上方に伸び, 互いに結合しないまま, 幹の両側の線がそれぞれ独立したように見える分離した幹もここに含める)
    - ※c 描線の不結合の著しいもの
    - ※d unnecessaryな描線の著しいもの
- ※6 サイズが用紙の $\frac{1}{6}$ 以下の木
- ※7 サイズが用紙の $\frac{1}{6}$ 以下の木で, 位置が用紙の左右上下の極端なところにあるもの
  - 8 弱くて淡い筆圧が著しく目立つ木
- ※9 透明性の明白なもの (地面の下にある根を描いたり, 幹の反対側の様子を描いたりする場合で, たんに抹消や推敲が不十分な場合を除く)
  - 10 2本以上の木を描くもの
- ※11 地面の線もなく, 用紙の下縁にも接していない木
- ※12 幹, 枝すべてについて単線のみのも
  - 13 木全体でなく, 木の一部だけを描いたもの
  - 14 樹冠 (茂み) をまったく示していない木 (枯れ木のように見える木)
  - 15 幹
    - ※a 管状の幹で上方がまったく結合しておらず, その空白部分に樹冠の存在を示す陰影がない木

HTPP テストによる正常者と精神分裂病者の比較 (高橋)

- ※b 上方が直角に閉じた幹
- c 折れた幹を明示した木
- d 上方が太くなっていく幹

16 樹皮

- ※a 幹がまったく空白の木 (陰影, 傷痕, 枝などもなく, 修飾のない幹)
- b つたのような縦線 (直線, 曲線) のある幹
- c 奇妙な模様の樹皮
- ◎d 傷痕が目立つ幹

17 枝

- a 枝をまったく描いていない木 (樹冠の有無を問わない)
- b 折れた枝の存在
- ※c 左右の対称性が著しいなどのほか, 非現実的で奇妙な枝
- ※d 単線の枝 (枝分れとしてではなく, 幹から直ちに単線の枝を描くもの)
- e まったく空白の枝 (陰影などの修飾のない枝)
- ※f 管状の枝で, はしがまったく結合しておらず, そのはしの空白部分に茂みの存在を示す陰影がない場合
- g ほとんどの枝のはしが直角に閉じている木
- ※h 先のほうが太くなった枝の多い木

18 根

- ※a 単線の根
- ※b 幹の下方にふくらみがなく, 根を示唆しない木
- c 幹の下方が著しく開いた木

19 木以外の事物も描くもの

- a 植木鉢や盆など
- b 果実
- c 虫, 鳥, 動物
- d 山

III 人物画

(男性像, 女性像のそれぞれに適用する)

- ※1 歪んだ印象の人
- ※2 非現実的, 図式的, 象徴的な人 (円と四角形と直線だけの人, 輪郭だけの人, 動物の顔に似た人, 神仏, がいこつ, 人形など)
- ※3 現実的なものと非現実的・図式的・象徴的なものの混在 (不必要な文字, 奇妙なデザインの服, 四角形の目などが混在しているもの)

- 4 普通の主題でない人（現実的な姿をしているが、武士、カウボーイ、首つりの人など）
- 5 描線の性質
  - ※a ふるえ
  - ※b 必要な描線の欠如（ズボンつりの片方が途中までしか描かれていない、スカートと足を区分する描線がない、服の袖の描線を描きながら首の部分の描線がないなど）
  - ※c 描線の不結合の著しいもの
  - ※d 不必要な描線の著しいもの
- ※6 サイズが用紙の $\frac{1}{4}$ 以下の人
  - 7 サイズが用紙の $\frac{1}{4}$ 以下の人で、位置が用紙の左右上下の極端なところにあるもの
  - 8 弱くて淡い筆圧が著しく目立つもの
- ※9 透明性の明白なもの（衣服を通してその下の衣服やからだが見えるもので、たんに抹消や推敲が不十分な場合を除く）
- ※10 半身像（顔や上半身だけを描くもの）
- ※11 4等身以下の人（顔が全身の $\frac{1}{4}$ 以上のサイズ）
  - 12 裸体の人
    - a 上半身のみ裸体
    - b 全身裸体
    - c 乳房が明白に描かれたもの
    - d 生殖器が描かれたもの
  - 13 うしろ向きの人
  - 14 横向きの人（完全な横顔の人）
  - 15 衣服
    - ※a 裸体ではないが、衣服をまったく示唆していない
    - b ボタンが合計7つ以上あるもの
    - c 奇妙なデザインの衣服
  - 16 顔
    - a 輪郭だけの顔
    - ※b 変形した顔や動物状の顔
  - 17 顔の必須部分の欠如
    - a 眉
    - ※b 耳
    - c 口
  - 18 目
    - ※a 円やだ円の輪郭だけで瞳がない目

HTPP テストによる正常者と精神分裂病者の比較（高橋）

- b 瞳をまるく線で描き、黒くぬろうとしない
  - c 単線だけの目で推敲がない
  - ※d 点の目
  - ※e ぬりつぶした目
  - f 帽子や眼鏡で目がかくされているもの
  - ※◎g 大きすぎる印象を与える目
  - ※h 左右が不均衡の目(大きさ, 形, 位置, 推敲の程度などで, 左右の不均衡が目立つもの)
- 19 口
- a 単線だけの口で推敲がない
  - ※b 単線で円形もしくはその変形に描かれた口
  - ※c 形が歪んでいたり, 乱雑に描かれた口
  - d 歯の見える口
- 20 鼻
- a 単線だけの鼻で推敲がない
  - b 点だけの鼻
  - ※c 三角形, 四角形, 円形, だ円形など幾何図形的な鼻
  - ※d 大きすぎる印象を与える鼻
  - ※e 奇妙に歪んだ形の鼻
- ※21 まったく陰影や修飾がなく, 空白のままの頭髮
- 22 耳
- a 大きすぎる印象を与える耳
  - b 左右が不均衡の耳
- 23 首
- ※a 首がまったくないもの
  - ※b 長すぎる印象を与える首
  - ※c 細すぎる印象を与える首
- 24 腕
- a 腕がない人(腕をうしろに回したり, 横向きで腕が見えなかったりする場合は除くが, 用紙によって切断されたものを含める)
  - b 腕が首から出ているもの
  - ※c 左右が不均衡の腕
- 25 手
- ※a 手だけがない人(腕からない場合は24-aに含める。腕組みをしていたり, ポケットに入れたりしているために見えない場合は除く)



- b 円形やグローブ状の手であり，指を示す線のない手
- ※c 単線の指
- d 爪を明示した指
- ※e 指の分化を意図して描きながら，指が5本でない場合
- ※f 左右が不均衡の手

26 足

- ※a 足がない人（用紙によって切断されたものを含める）
- b 裸足を明示した足（下駄や草履をはいている場合を除く）
- c 裸足で足指の爪を描くもの
- d 単線だけで描いた足
- e 単線だけで描いた足指
- f 円形や四角形やグローブ状の足
- ※g 左右が不均衡の足

27 いずれかの関節を明示したもの

28 胴

- a 単線の胴
- ※b 三角形，四角形，だ円形などで描かれた胴
- c 胴の線の欠如

IV 人物像の差異

- 1 異性像を先に描くもの
- 2 人物像を描くことの拒否
  - a 男性像
  - b 女性像
- ※3 男性像と女性像の性差が不明確なもの
- 4 男性像と女性像のサイズの差が目立つもの
  - a 異性像が大きいもの
  - b 同性像が大きいもの

**実施結果**

上記の分裂病サインと考えられるもの（家屋画30項目，樹木画40項目，男性像71項目，女性像71項目，人物像の差異6項目の合計218項目）について，精神分裂病者と正常者の出現率を比較した結果は，表1から表5までの通りである。

これらのサインのうち，4つの描画のサイン番号1は全体的評価に関するものであり，4つの描画のすべてにおいて，正常群よりも精神分裂病群に有意に多く出現した。

HTPP テストによる正常者と精神分裂病者の比較 (高橋)

表1 家屋画における分裂病サインの分裂病群と正常群にみられた人数と  $\chi^2$  値

サイン番号	分裂病	正 常	$\chi^2$	サイン番号	分裂病	正 常	$\chi^2$	サイン番号	分裂病	正 常	$\chi^2$
1	94	8	135.188**	8	19	5	7.904**	14	31	8	16.487**
2	13	0	11.773**	9	5	0	3.274	15	3	0	1.352
3	14	0	12.892**	10	8	2	2.619	16-a	26	16	2.943
4	8	0	6.356*	11	12	0	10.665**	16-b	15	19	0.557
5-a	35	7	23.071**	12-a	2	0	0.505	16-c	0	1	0.000
5-b	23	3	15.745**	12-b	12	3	4.579*	17-a	2	0	0.505
5-c	52	10	39.616**	12-c	9	2	3.445	17-b	2	4	0.171
5-d	14	1	10.302**	13-a	2	0	0.505	17-c	1	0	0.000
6	37	6	27.778**	13-b	2	0	0.505	17-d	3	0	1.352
7	26	3	19.224**	13-c	9	0	7.414**	17-e	8	26	11.271**

\*\* P<.01 \* P<.05

表2 樹木画における分裂病サインの分裂病群と正常群にみられた人数と  $\chi^2$  値

サイン番号	分裂病	正 常	$\chi^2$	サイン番号	分裂病	正 常	$\chi^2$	サイン番号	分裂病	正 常	$\chi^2$
1	86	16	89.565**	12	8	0	6.356*	17-d	38	6	29.091**
2	25	1	23.073**	13	7	3	0.943	17-e	35	29	0.793
3	7	0	5.312*	14	41	33	1.303	17-f	18	5	6.992**
4	8	0	6.356*	15-a	35	6	25.211**	17-g	5	2	0.590
5-a	16	1	12.495**	15-b	12	2	6.179*	17-h	11	1	7.139**
5-b	20	2	14.596**	15-c	1	1	0.000	18-a	8	0	6.356*
5-c	50	9	38.933**	15-d	2	0	0.505	18-b	25	2	20.434**
5-d	14	2	8.156**	16-a	62	27	23.115**	18-c	20	22	0.118
6	14	0	12.892**	16-b	12	9	0.474	19-a	3	0	1.352
7	6	0	4.283*	16-c	4	3	0.000	19-b	3	1	0.255
8	9	4	1.308	16-d	4	29	20.535**	19-c	0	2	0.505
9	6	0	4.283*	17-a	16	8	2.993	19-d	1	2	0.000
10	3	0	1.352	17-b	2	0	0.505				
11	50	32	6.299*	17-c	30	4	21.743**				

\*\* P<.01 \* P<.05

またサイン番号2から9までと、家屋画と樹木画のサイン番号10は、形式分析のサインである。これらのサインのうち番号2から9までは、いずれかの描画において、精神分裂病群に多く出現した。次に各サインに関して精神分裂病群に有意に多かった描画を示す。なお家屋画と樹木画のサイン番号10は、精神分裂病群と正常群における出現に有意な差がなかった。

- 2 非現実的・図式的・象徴的な描画……家屋画，樹木画，男性像，女性像
- 3 現実的なものと非現実的・図式的・象徴的なものの混在……家屋画，樹木画，男性像，女性像
- 4 普通の主題以外の描画……家屋画，樹木画
- 5-a ふるえ……家屋画，樹木画，男性像，女性像
- 5-b 必要な描線の欠如……家屋画，樹木画，男性像，女性像
- 5-c 描線の不結合の著しいもの……家屋画，樹木画，男性像，女性像

表3 男性像における分裂病サインの分裂病群と正常群にみられた人数と $\chi^2$ 値

サイン番号	分裂病	正常	$\chi^2$	サイン番号	分裂病	正常	$\chi^2$	サイン番号	分裂病	正常	$\chi^2$
1	93	1	153.818**	16-b	7	0	5.312*	23-a	23	1	20.625**
2	21	0	21.058**	17-a	3	2	0.000	23-b	17	4	7.581**
3	9	0	7.414**	17-b	40	11	21.467**	23-c	17	2	11.291**
4	4	0	2.292	17-c	2	0	0.505	24-a	5	0	3.274
5-a	14	0	12.892**	18-a	18	5	6.992**	24-b	2	0	0.505
5-b	36	0	40.685**	18-b	11	12	0.049	24-c	47	14	24.702**
5-c	51	7	45.330**	18-c	5	8	0.327	25-a	5	1	1.542
5-d	16	0	15.165**	18-d	9	1	5.133*	25-b	11	9	0.220
6	7	0	5.312*	18-e	4	3	0.000	25-c	2	0	0.505
7	3	0	1.352	18-f	1	1	0.000	25-d	1	3	0.255
8	14	5	3.687	18-g	13	4	4.080*	25-e	17	4	7.581**
9	4	0	2.292	18-h	40	20	9.167**	25-f	46	16	20.212**
10	4	0	2.292	19-a	17	15	0.146	26-a	15	2	9.180**
11	32	0	35.143**	19-b	22	10	5.266*	26-b	4	3	0.000
12-a	4	2	0.171	19-c	35	8	21.072**	26-c	1	1	0.000
12-b	4	0	2.292	19-d	1	0	0.000	26-d	3	0	1.352
12-c	3	0	1.352	20-a	10	3	2.943	26-e	1	0	0.000
12-d	1	0	0.000	20-b	2	0	0.505	26-f	25	16	2.428
13	0	0	0.000	20-c	8	1	4.171*	26-g	48	13	27.786**
14	10	6	1.078	20-d	12	3	4.579*	27	2	0	0.505
15-a	18	1	14.747**	20-e	14	2	8.156**	28-a	0	0	0.000
15-b	3	6	0.463	21	32	4	24.212**	28-b	12	0	10.665**
15-c	1	0	0.000	22-a	5	4	0.000	28-c	4	0	2.292
16-a	2	0	0.505	22-b	21	13	2.226				

\*\* P < .01 \* P < .05

HTPP テストによる正常者と精神分裂病者の比較 (高橋)

表 4 女性像における分裂病サインの分裂病群と正常群にみられた人数と  $x^2$  値

サイン番号	分裂病	正 常	$x^2$	サイン番号	分裂病	正 常	$x^2$	サイン番号	分裂病	正 常	$x^2$
1	93	9	128.973**	16-b	6	0	4.283*	23-a	19	0	18.665**
2	15	0	14.023**	17-a	1	0	0.000	23-b	22	13	2.752
3	10	0	8.486**	17-b	71	71	0.000	23-c	24	7	10.852**
4	3	0	1.352	17-c	1	0	0.000	24-a	5	0	3.274
5-a	26	2	21.648**	18-a	19	2	13.477**	24-b	4	0	2.292
5-b	39	0	45.004**	18-b	7	6	0.082	24-c	54	18	26.757**
5-c	56	4	59.606**	18-c	2	5	0.590	25-a	8	1	4.171*
5-d	14	3	6.375*	18-d	6	0	4.283*	25-b	11	11	0.000
6	10	0	8.486**	18-e	10	1	6.124*	25-c	7	0	5.312*
7	4	0	2.292	18-f	0	0	0.000	25-d	0	5	3.274
8	12	5	2.295	18-g	9	19	4.092*	25-e	13	1	9.230**
9	9	0	7.414*	18-h	42	28	4.107*	25-f	50	19	20.293**
10	6	0	4.283*	19-a	14	18	0.585	26-a	20	6	8.549**
11	38	3	34.653**	19-b	20	10	3.860*	26-b	5	1	1.542
12-a	1	0	0.000	19-c	47	14	24.701**	26-c	1	0	0.000
12-b	2	0	0.505	19-d	2	0	0.505	26-d	3	0	1.352
12-c	2	0	0.505	20-a	8	6	0.305	26-e	0	0	0.000
12-d	2	0	0.505	20-b	0	0	0.000	26-f	14	5	3.687
13	0	0	0.000	20-c	7	2	1.854	26-g	51	14	29.894**
14	12	4	3.303	20-d	16	11	1.055	27	2	4	0.171
15-a	22	1	19.422**	20-e	16	2	10.226**	28-a	0	0	0.000
15-b	5	1	1.542	21	32	8	17.600**	28-b	13	0	11.773**
15-c	5	1	1.542	22-a	6	4	0.105	28-c	5	0	3.274
16-a	5	0	3.274	22-b	9	6	0.644				

\*\* P < .01 \* P < .05

表 5 人物像の差異における分裂病サインの分裂病群と正常群にみられた人数と  $x^2$  値

サイン番号	分裂病	正 常	$x^2$	サイン番号	分裂病	正 常	$x^2$	サイン番号	分裂病	正 常	$x^2$
1	19	12	1.840	2-b	1	0	0.000	4-a	20	13	1.747
2-a	0	0	0.000	3	27	0	28.540**	4-b	25	23	0.107

\*\* P < .01

5-d 不必要な描線の著しいもの……家屋画，樹木画，男性像，女性像

6 サイズが用紙の $\frac{1}{9}$ 以下の描画……家屋画，樹木画，男性像，女性像

7 サイズが用紙の $\frac{1}{9}$ 以下の描画で，位置が用紙の左右上下の極端なところにあるもの……家屋画，樹木画

8 弱くて淡い筆圧が著しく目立つもの……家屋画

9 透明性の明白なもの……樹木画，女性像

家屋画と樹木画のサイン番号11以下，男性像と女性像のサイン番号10以下は，内容分析のサインである。次に各描画ごとに精神分裂病群に正常群よりも多く出現したサインをあげる。

### I 家屋画

11 窓も扉もない家

12-b 家の他の部分を単純に描きながら，屋根にのみ陰影をくわしくつけるなどの推敲が目立つもの

13-c 壁の全面もしくは一面に縦線（修飾して板の印象を与えるものを除く）を描くもの

14 窓はあるが扉のない家

### II 樹木画

11 地面の線もなく，用紙の下縁にも接していない木

12 幹，枝すべてについて単線のみの木

15-a 管状の幹で上方がまったく結合しておらず，その空白部分に樹冠の存在を示す陰影がない木

15-b 上方が直角に閉じた幹

16-a 幹がまったく空白の木（陰影，傷痕，枝などもなく，修飾のない幹）

17-c 左右の対称性が著しいなどのほか，非現実的で奇妙な枝

17-d 単線の枝（枝分れとしてではなく，幹から直ちに単線の枝を描くもの）

17-f 管状の枝で，はしがまったく結合しておらず，そのはしの空白部分に茂みの存在を示す陰影がない場合

17-h 先のほうが太くなった枝の多い木

18-a 単線の根

18-b 幹の下方にふくらみがなく，根を示唆しない木

### III 男性像

11 4等身以下の人（顔が全身の $\frac{1}{4}$ 以上のサイズ）

15-a 裸体ではないが，衣服をまったく示唆していない

16-b 変形した顔や動物状の顔

17-b 耳の欠如

18-a 円やだ円の輪郭だけで瞳のない目

- 18-d 点の目
- 18-g 大きすぎる印象を与える目
- 18-h 左右が不均衡の目 (大きさ, 形, 位置, 推敲の程度などで, 左右の不均衡が目立つもの)
- 19-b 単線で円形もしくはその変形に描かれた口
- 19-c 形が歪んでいたり, 乱雑に描かれた口
- 20-c 三角形, 四角形, 円形, だ円形など幾何図形的な鼻
- 20-d 大きすぎる印象を与える鼻
- 20-e 奇妙に歪んだ鼻
- 21 まったく陰影や修飾がなく, 空白のままの頭髮
- 23-a 首がまったくないもの
- 23-b 長すぎる印象を与える首
- 23-c 細すぎる印象を与える首
- 24-c 左右が不均衡の腕
- 25-e 指の分化を意図して描きながら, 指が5本でない場合
- 25-f 左右が不均衡の手
- 26-a 足がない人
- 26-g 左右が不均衡の足
- 28-b 三角形, 四角形, だ円形などで描かれた胴

#### IV 女性像

- 10 半身像 (顔や上半身だけを描くもの)
- 11 4等身以下の人 (顔が全身の $\frac{1}{4}$ 以上のサイズ)
- 15-a 裸体ではないが, 衣服をまったく示唆していない
- 16-b 変形した顔や動物状の顔
- 18-a 円やだ円の輪郭だけで瞳がない目
- 18-d 点の目
- 18-e ぬりつぶした目
- 18-h 左右が不均衡の目 (大きさ, 形, 位置, 推敲の程度などで, 左右の不均衡が目立つもの)
- 19-b 単線で円形もしくはその変形に描かれた口
- 19-c 形が歪んでいたり, 乱雑に描かれた口
- 20-e 奇妙に歪んだ形の鼻
- 21 まったく陰影や修飾がなく, 空白のままの頭髮
- 23-a 首がまったくないもの
- 23-c 細すぎる印象を与える首

- 24- c 左右が不均衡の腕
- 25- a 手だけがない人
- 25- c 単線の指
- 25- e 指の分化を意図して描きながら、指が5本でない場合
- 25- f 左右が不均衡の手
- 26- a 足がない人
- 26- g 左右が不均衡の足
- 28- b 三角形, 四角形, だ円形などで描かれた胴

次に人物像の差異に関するサインで、精神分裂病群に正常群よりも多く出現したものをあげる。

### 3 男性像と女性像の性差が不明確なもの

ところで今回検討するために選んだサインの中で、HTPPテストを実施した結果、精神分裂病群よりも正常群に多く出現したサインがあった。それは次の3項目である。

家屋画 17- e 塀や柵を描くもの

樹木画 16- d 傷痕の目立つ幹

女性像 18- g 大きすぎる印象を与える目

このように家屋画については30のサインのうち15項目、樹木画については40のサインのうち22項目、男性像については71のサインのうち31項目、女性像については71のサインのうち31項目、人物像の差異については6のサインのうち1項目が、正常群に比べて精神分裂病群に有意に多く出現した。また残りの118のサインのうち、115項目は両群に有意な差がなく、3項目のサインは精神分裂病群よりも正常群に有意に多く出現した。先にあげた分裂病サインの番号の前につけた※は、精神分裂病群での出現が有意に多かったものである。人物画に関しては、男性像か女性像のいずれかにおいて、有意な差があったものに※をつけた。正常群に多く出現した3項目には◎をつけて示した。「大きすぎる印象を与える目」のサインのみは、男性像については精神分裂病群に多く、女性像については正常群に多い結果となった。

## 考 察

4つの描画を通じて精神分裂病群に顕著に目立つのは、「歪んだ印象」の描画であり、このことは正常群と精神分裂病群の識別において全体的評価が有効なことを示している。これまでの研究の一部は、描画テストによって正常者と精神障害者を識別する能力が、心理臨床家とそうでない人との間で大差がないと述べている。この場合、人びとが手がかりとして用いているのは、いわば直観的な「歪んだ印象」であると考えられる。そして Stricker, G.<sup>17)</sup>の研究が示すように、全体的評価を構成する多くの具体的なサインを明確に意識して用いることにより、人びとは精神障害者と正常者をよりよく識別できるようになるといえる。その多くの具体的なサインのうち、

精神分裂病の識別に有効と考えられるものを、本研究で取り上げて検討したのであるが、この結果いくつかの所見が得られた。

サイン番号 2 から 9 までの形式分析のサインは、精神分裂病群に多く出現しており、精神分裂病者のいくつかの特色を表わしている。たとえば 2・3 「非現実的・図式的・象徴的な描画」は、かれらの非現実的・内閉的な思考を表わし、4 「普通の主題以外の描画」は、かれらが正常人と異なる思考の仕方によって物事を眺めていることを示している。5-a 「描線のふるえ」は運動統制力の欠如であるが、投与されている薬物の作用とも考えられ、この点はさらに検討したい。5-b 「必要な描線の欠如」は、精神分裂病者の現実吟味力の喪失を示唆している。5-c 「描線の不結合の著しいもの」は、精神分裂病群にきわめて多く出現しており、注意力や運動統制力の欠如によるとも考えられるが、それとともに、9 「透明性の明白なもの」と同じようにかれらの自我境界の不明確性を表わすと考えられる。5-d 「不必要な描線の著しいもの」は、不安と特異な思考方法の表われであり、自我と外界の関係について、なんらかの違和感のあることを示すようである。また 6・7 「サイズが用紙の $\frac{1}{6}$ 以下」という描画と、8 「弱くて淡い筆圧が著しく目立つもの」は、精神分裂病者が積極的に現実に働きかける意欲を欠き、自我が収縮していることを表わしている。

次に内容分析に関するサインを眺めると、家屋画の 11 「窓も扉もない家」、12-b 「家の他の部分を単純に描きながら、屋根にのみ陰影をくわしくつけるなどの推敲の目立つもの」、14 「窓はあるが扉のない家」は、精神分裂病者が人間関係を避けて自分の内に閉じ込めようとする傾向を示している。また 13-c 「壁の全面もしくは一面に縦線を描くこと」は、かれらの特異な常同的思考を示唆している。

樹木画の 11 「地面の線もなく、用紙の下縁にも接していない木」は、精神分裂病者の洞察力の欠如や自我の不安定性の表われであろう。また 12 「幹・枝すべてについて単線の木」、17-d 「単線の枝」、18-a 「単線の根」は、未成熟な精神発達段階への退行を表わし、かれらの無力感や不適応感を示している。15-a 「管状の幹で上方がまったく結合していない木」と、17-f 「管状の枝ではしがまったく結合していない木」は、精神分裂病者が知能と感情のバランスを失っており、自我の防衛が破れて内的衝動が外界に流出する危険を示唆している。これに対し 15-b 「上方が直角に閉じた幹」は、崩壊しかけているパーソナリティの統合を維持しようとしているようである。16-a 「幹がまったく空白の木」は、精神分裂病者が外界と自己との関係を配慮しないことや、空虚な精神状態を表わしている。17-c 「左右の対称性が著しいなどの非現実的で奇妙な枝」は、家屋画の 13-c のサインと同じように、現実を無視した常同的思考を示したり、外界との不適切な接触の仕方を示したりする。17-h 「先のほうが太くなった枝の多い木」は、洞察力を欠いて無分別になり、感情を適切に統制できないことを示唆するし、18-b 「幹の下方にふくらみがなく根を示唆しない木」は、融通性を失った硬いパーソナリティであることを表わしている。



人物画の10「半身像」は、精神分裂病者が注意力の欠如などによって、検査者の教示を無視しがちであることを示している。11「4等身以下の人」は、幼児の描く人物画の特色でもあり、精神分裂病者が未成熟な精神発達段階に退行していることを表わしている。15-a「裸体ではないが衣服をまったく示唆していない」は、社会的慣習への配慮を失なっていることや、自分の内的世界に没頭していることの表われであろう。16-b「変形した顔や動物状の顔」は、19-b「単線で円形もしくはその変形に描いた口」、20-c「三角形、四角形、円形、だ円形など幾何図形的な鼻」、20-d「大きすぎる印象を与える鼻」、20-e「奇妙に歪んだ形の鼻」、28-b「三角形・四角形・だ円形などで描かれた胴」と同じように、精神分裂病者の身体像や感情体験の歪みや自発性の低下を表わしている。17-b「男性像における耳の欠如」は、注意力の欠如を意味すると考えられる。また18-a「輪郭だけで瞳がない目」、18-d「点の目」、18-e「ぬりつぶした目」は、家屋画の11や14のサインと同じように、外界との接触を避け、自分の空想世界に没頭して自発性を失なっていることを表わしている。なお18-g「大きすぎる印象を与える目」は、男性像については精神分裂病群に多く、女性像については正常群に多いという結果となった。これは一般に目の大きいことは女性の魅力のある特色と考えられていることから、正常群に女性像の目を大きく描くものが多かったとも考えられ、大きすぎる目は後にも述べるように、男性像においてのみ問題のあるサインといえるが、今後さらに検討を加えることにしたい。18-h「左右が不均衡の目」は、24-c「左右が不均衡の腕」、25-f「左右が不均衡の手」、26-g「左右が不均衡の足」と同じように、精神分裂病者の身体像の歪みと、論理的思考を欠いた現実吟味力の低下を表わしている。21「まったく陰影や修飾がなく、空白のままの頭髮」も外界への配慮の欠如を表わすが、性的役割が不明確になっている可能性がある。23-a「首がまったくないもの」、23-b「長すぎる印象を与える首」、23-c「細すぎる印象を与える首」は、精神分裂病者が感情や衝動を理性で統制することができず、理性と感情の間に分裂や葛藤が存在することを示している。25-a「手だけがない人」、26-a「足だけがない人」は、精神分裂病者の身体像の歪曲を示し、前者は現実との接触を避けようとする傾向を、後者は自立心や自発性の減退を表わしている。25-c「単線の指」は、樹木画の17-dや18-aのサインと同じように、退行傾向や無力感を表わし、25-e「指の分化を意図しながら、指が5本でない場合」は、不注意や現実吟味力の低下を示唆している。

また人物像の差異に関するサインの3「男性像と女性像の性差が不明確なもの」は、精神分裂病者が性的同一性を喪失し、性的役割が分化していないことを表わしている。ところで1「異性像を先に描くもの」について、男子被検者と女子被検者を精神分裂病群と正常群に分けて検討したところ、男子分裂病群11人、男子正常群4人、 $\chi^2=3.874$  ( $P<.0.5$ )、女子分裂病群8人、女子正常群8人、 $\chi^2=0.000$  となり、男子被検者についてののみ有意な差がみられ、男子分裂病者が男子正常者よりも異性像を先に描くことの多いことを示している。

なお男性像と女性像について、先に述べたように18-g「大きすぎる印象を与える目」は、精神分裂病群と正常群において、まったく正反対の出現をしている。それ以外のサインで男性像で

は精神分裂病群に多く出現し、女性像では有意な差を示さなかったのは、17-b「耳の欠如」、20-c「三角形、四角形、円形、だ円形など幾何図形的な鼻」、20-d「大きすぎる印象を与える鼻」、23-b「長すぎる印象を与える首」の4項目である。他方、女性像では精神分裂病群に多く出現し、男性像では有意な差を示さなかったのは、9「透明性の明白なもの」、10「半身像」、18-e「ぬりつぶした目」、25-a「手だけがない人」、25-c「単線の指」の5項目である。このうち17-b「耳の欠如」については、現実の女性の耳が頭髮で隠されていることから正常群にも多く出現すると考えられ、「大きすぎる印象を与える目」と同様に、男性像においてのみ問題のあるサインといえる。その他のサインについては、男性像と女性像によって異なる意味があるとは考えられないようであり、今後検討を加えたい。

ところで分裂病サインと考えられているサインのうちで、家屋画の17-e「扉や柵を描くもの」、樹木画の16-d「傷痕の目立つ幹」、女性像の18-g「大きすぎる印象を与える目」の3項目が、今回の研究では精神分裂病群よりも正常群に多く出現した。「大きすぎる印象を与える目」については既に述べたが、「扉や柵を描くもの」が正常群に多いのは、正常者が環境からの刺激を適切に統制しようとするのに対し、精神分裂病者が窓や扉を描かない形での強い閉じ込み傾向を示すともいえる。また「傷痕の目立つ幹」については、傷痕は被検者が思い出しうる外傷経験を示すといわれていることから、精神分裂病者よりも正常者に多いことも肯定できる。これとともに外界への積極的な関心を欠く精神分裂病者はHTPPテストの描画において、修飾や推敲を加えることが少ないことも影響するように思われる。たとえば家屋画で煙突を描くのは、精神分裂病群9人、正常群24人、 $\chi^2=8.021$  ( $P<.0.1$ )、カーテンを窓に描くのは、精神分裂病群3人、正常群24人、 $\chi^2=16.887$  ( $P<.01$ )であり、一般に精神分裂病者が描画に修飾や推敲を加えることが少ないといえる。

なお今回の研究では、分裂病サインとしてあげたもののうちの115項目が、個個にとらえたかぎり、精神分裂病群と正常群において有意な差を示さなかったが、直ちにそれが両群を識別するのに不適切なサインとはいえない。たとえば家屋画の12-a「屋根が壁面となっている家」、13-a「ひとつの屋根に三面の壁を描いた家」、樹木画の15-d「上方が太くなっていく幹」、人物画の12-d「裸体で生殖器が描かれたもの」、24-b「腕が首から出ているもの」など多くのサインは、精神分裂病群には幾人かがみられて、正常群では皆無であった。この点については Hammer, E.<sup>6)</sup>が言うように、ある分裂病サインを示す被検者だけを集めて、精神分裂病か否かを検討するべきであり、今後さらに多くの資料を集めて検討していきたい。

また今回の研究結果と前回の高橋の研究結果の比較や、さまざまな臨床場面にHTPPテストを実施した結果を考慮する時、ここにあげた分裂病サインが必ずしも精神分裂病者のみのサインではなく、ひろく精神障害者を含めた不適応行動をとる者のサインと共通するところもあると考えられる。この点についても、精神分裂病以外の精神障害者や犯罪者などについて、さらに検討を進めていきたい。

参 考 文 献

- 1) Baldwin, I. The head-body ratio in human figure drawings of schizophrenic and normal adults. *Journal of Projective Techniques*, 28:393-396, 1964.
- 2) Buck, J. *The House-Tree-Person technique (revised manual)*. Cali.: Western Psychological Services, 1970.
- 3) Fisher, S. & Fisher, R. Test of certain assumptions regarding figure drawing analysis. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 45 : 727-732, 1950.
- 4) Hammer, E. *The H-T-P clinical research manual*. Cali.: Western Psychological Services, 1955.
- 5) Hammer, E. *The clinical application of projective drawings*. Ill.: Charles, C. Thomas, 1958.
- 6) Hammer, E. Critique of Swensen's "Empirical evaluations of human figure drawings". *Journal of Projective Techniques*, 23:30, 1959.
- 7) Holzberg, J. & Wexler, M. The validity of human form drawings as a measure of personality deviation. *Journal of Projective Techniques*, 14:343-361, 1950.
- 8) Hozier, A. On the breakdown of the sense of reality: A study of spatial perception in schizophrenia. *Journal of Consulting Psychology*, 23:185-194, 1959.
- 9) 一谷彊, 津田浩一他 場面緘黙症の研究(Ⅱ)ーバウムテストおよびP Fスタディにみられる特徴と予後との関係ー 京都教育大学紀要, Ser. A. 42:29-52, 1973.
- 10) Jaspers, K. *Allgemeine Psychopathologie*. Berlin: Springer-Verlag, 1948. (内村祐之他訳 精神病理学総論 岩波書店 1956)
- 11) Koch, K. *Der Baum-Test*. Bern: Hans Huber, 1949. (林勝造他訳 バウムテスト 日本文化科学社 1970).
- 12) Machover, K. *Personality projection in the drawings of human figure*. Ill.: Charles C. Thomas, 1949.
- 13) McElhaney, M. *Clinical psychological assessment of the human figure drawing*. Ill.: Charles C. Thomas, 1969.
- 14) Reznikoff, M. & Nicholas, A. An evaluation of human figure drawing indicators of paranoid pathology. *Journal of Consulting Psychology*, 22:395-397, 1958.
- 15) Ribler, R. Diagnostic prediction from emphasis on the eye and the ear in human figure drawings. *Journal of Consulting Psychology*, 21:223-225, 1957.
- 16) 斎藤通明 陳旧性分裂病・うつ状態にみられる特徴, 林勝造, 一谷彊(編著) バウム・テストの臨床的研究 日本文化科学社 1973.
- 17) Stricker, G. Acturial, naive clinical, and sophisticated clinical prediction of pathology from picture drawings. *Journal of Consulting Psychology*, 31:492-494, 1967.
- 18) Swensen, C. Empirical evaluation of human figure drawings: 1957-1966. *Psychological Bulletin*, 70:20-44, 1968.
- 19) 高橋雅春, 萱場徳子 精神分裂病を伴う非行少年に試みたHTPテスト 矯正医学 16:19-24, 1967.
- 20) 高橋雅春 描画テスト診断法ーHTPテストー 文教書院, 1967.
- 21) 高橋雅春 描画テスト入門ーHTPテストー 文教書院, 1974.